

以下は、毎年、花の日こどもの日の礼拝の中で語る 聖書の中のイエスさまの出来事ですが、子ども達が大好きなお話の1つです。主人公のルカと一緒に、笑ったり悔しがったりびっくりしたり悲しくなったり…。最後に ルカが イエスさまに抱っこされた時の 皆の顔は何とも言えない満足感と 安心感に満ちた表情を見せてくれます。私自身も大好きなお話です。



『イスラエルのガリラヤ湖近くの小さな村に、ルカというひとりの男の子が住んでいました。ルカの両親は神様を信じていたので ルカもいつも一緒にお祈りをしたり 聖書のお話を聞いたり、讃美歌を歌ったりしていました。ルカは神様が大好きでした。

ある日のことです。仲良しの友達から、この村にイエスさまが来て 皆にお話をしてくださるというニュースを聞き、ルカは 飛び上がって喜びました。「大好きな神様の子どもイエスさまに会える!」「どんな人だろう?」と 心に 想い浮かべるだけで胸が ドキドキしてきました。ルカは この気持ちをイエスさまに表したいと思い、プレゼントを持っていくことにしました。お母さんや友達にも相談して、ルカが 毎日庭で大切に育てている大好きなお花に決めました。

そしていよいよ、当日の朝です。早起きしたルカは いちばんきれいなお花を選びました。お母さんが、素敵なリボンを丁寧に結び、とっても可愛らしい 小さな花束にしてくれました。それから ルカは、身なりを整え 花束を胸に抱いて ニコニコしながら 友達やお母さん達と一緒に イエスさまが来るという丘の公園に急ぎました。村中の人々が公園へ向かっています。よく見ると この村の人達だけではなくて 隣の町や他のあちこちから集まってきたらしく、公園までの道は今までには見たこともない位の大勢の老若男女の姿で 溢れ返っていました。小さなルカと友達は 前に行こうとしても「邪魔!」大きな大人の人達に追いやられてしまい、公園の中に入ることもできないまま、いつの間にかお母さん達とも離れ離れになってしまいふたりは思わず泣きそうになってしまいました。けれどもルカは、イエスさまに会いたい! お花をプレゼントしたい! と、あきらめることなく 心を合わせて 神様にお祈りをしました。ところが 目の前には 背の高い大人達が立ちばかり、イエスさまの姿は 全く見えません。ふたりは 幾度もジャンプをしたり 思いっきり背伸びをしたりして 必死に 頑張りましたが、小さなルカ達にはイエスさまの姿を見ることは どうしても出来ませんでした。中に入ろうと「すみません…」と声をかけた途端、大人達に「邪魔!」と弾き飛ばされ、「うるさい!」と怖い顔で 怒鳴られてしまいました。ルカも友達もすっかり悲しくなって、がっかりしながらそのまま地面に力なく座り込み、ため息をついて しばらくうつむいてじーっとしていました。…が、ルカが ふと顔をあげた瞬間のことでした。なんとということでしょう! …驚いたことに目の前の光景は、大人の足と足の隙間から ずーっと奥までの様子が 筒抜けに見えたのです。さらにと小さくしゃがんで先を見ると、公園の真ん中に立っている イエスさまらしき方の白い服がわかりました。ルカから聞いた友達も同じように低くなり、そこで ふたりは互いに笑顔でうなずきあい、再び元気を取り戻しました。「よし! ここから行こう!」と 合図し合い、ルカは プレゼントのお花をもう一度確認し直して そっと大事に胸のポケットに入れました。そして 四つん這いになったまま じょうずに大人達の足のトンネルを潜り抜けていきました。とうとう真ん中までたどり着いた時 まぶしい光に ふたりは思わず「ヤッ!」と声を上げ大喜びで立ち上がりました。すると そこには、とても優しい笑顔で 天を仰ぎ、両手を広げてお話をされるイエスさまがいました。ふたりは 何か起こったのかわからなくなってしまったただ驚いたまま立ち尽くしていると、一斉に ふたりを叱りつける 大きな声が聞こえました。「こらっ! 勝手に入ってきて何をやっているんだ! ここは いたずらするところじゃない!」

「先生は今 大事な話をなさっているんだぞ！子どもには関係ない！向こうへ行きなさい！」それは いつも イエスさまのお世話や お手伝いをしている 12人のお弟子さん達でした。ふたりは 皆の前で厳しく叱られ、お弟子さんたちによって つまみ出されそうになりました。するとその時です。「ルカ おいで！」と 優しい声がしてイエスさまが両手を広げていました。「えっ!? 僕の名前を 知ってるの？」初めて会ったばかりの イエスさまから名前を呼ばれ嬉しくて嬉しくてにっこり笑いながら夢中でイエスさまの腕の中へ駆け寄って行ったルカをそのまま優しく抱き上げました。温かな腕に抱かれたルカは、心がほっとしました。そしてポケットから 小さな贈り物を出し、「イエスさま！これ…」と、持ってきた花束を渡しました。「ありがとう」と優しく受け取られ ルカの頭をなでた後、友達のことと一緒に抱っこしてふたりのために、神様からの祝福が豊かにありますようにと お祈りを献げてくださいました。けれども、その直後、イエスさまは、お弟子さん達や 周りにいた大勢の大人達に向かって 厳しいまなざしで見つめ 静かに言われました。「大人は なぜ子どもを邪魔者にするのですか。子ども達を怒ってはいけません。子どもを 侮ったり 虐げたりすることも してはなりません。子ども達を わたしのところに来させなさい。神の国は、このような者たちのものです。子どもようにならなければ 神の国には入れません。」神さまは 何よりも子どもを愛され幼な子こそ、この世で 最も尊重されるべき存在であるのだということを 諭されたのでした。それから集まって来た子ども達ひとりひとりをルカと同じように抱き上げ、祈られました。イエスさまの愛に満たされて、ルカの心は幸せと喜びで いっぱいになりました。その様子を遠くから見ていたルカのお母さんも 心から喜んで 神様に 感謝のお祈りをささげました。』

イエス・キリストは この世の中の誰よりも 幼な子を 尊重し、愛されました。どんな時も 小さな命を大切にされました。また、世の中の弱い立場にいる人、貧しい人、心に悲しみを持っている人、物言えない小さいものに対して、真っ先に手を差し伸べられて、慈しみ、慰め、大切にされました。

このイエスさまの深い愛とみこころをいつまでも覚え、表していこうと、祈りをひとつにして

1856年、アメリカのレナード牧師が 世界中の子ども達の心身の健やかな成長を願う特別礼拝を、6月の第2日曜に行いました。それからその後の1870年には、マサチューセッツの教会において子ども達の心や個性を、色とりどりの花々の美しさと清らかさに重ねて、その成長を祝福するという「シャロンのバラの礼拝」が行なわれ、その両日が同じ日であったことから、やがて後になってから『花の日・こどもの日礼拝』として、全世界のキリスト教会に広まりました。

これが、花の日・こどもの日の祝福の礼拝です。

今年は、今週の日曜日、6月12日(日)に、全世界のキリスト教会においてお祝いされました。

恵みが重なり、ペンテコステ礼拝と同じ日でした。

つのぶえ保育園では、ペンテコステを先週に行い、今朝、色とりどりのきれいなお花たちを飾り、心温まる礼拝を行いました。たくさんきれいな花々に囲まれながら、1つ1つ神様の御手によって創られたその御業を、感じつつ、みんなが揃い、こうして共に礼拝できることの幸いを、心より嬉しく感謝しました。この時をお祝いし、ささやかですが、おひとりおひとりに、お花をお贈り致しますので各御家庭で飾って頂ければ幸いです。

世界中の子ども達ひとりひとりの上に、神様の平和と、溢れる御愛と御恵みが注がれ続けますよう、心よりお祈り致します。